

「あいりん総合センター」にかかる新聞記事について

次がですね、ちょっと1点、毎日新聞に対してなんです、昨日ですか、9月22、えっ、違いますか、22日付の毎日新聞の夕刊に、「あいりんの要、隣に移転」と、「大阪市が方針、総合センター萩之茶屋小敷地へ」という見出しをうった記事が掲載されました。方針固まったというふうに書くんだしたら、僕に一言、毎日ぶら下がりやってるんですから、「方針固まったんですか」というふうに聞いてくれればいいのにですね、これ書くことでどうなったかという、もう現場大混乱です。これ、本当にあの、朝日新聞と、毎日新聞はね、僕はほんと一番卑怯だなど、今の朝日新聞よりもっと卑怯だなどというふうに僕は思ってるんですが、あとで言いたいんですけどね。これ、慰安婦問題と同じで、先にこんなこと、こういう報道をやって何が楽しいのか本当にわからないですけど、現場混乱しますよ。今まで、行政が勝手に方針を決めてですね、で、現場に押し付けたということがあるから、あのあいりんの地域でいろんな問題がなかなか解決できなかった、進まなかったところをですね、方針転換して地域の意見を汲み上げようと、そういう意味では今回、朝日の方がある意味中立的に、冷静にこの問題、あいりん地区のこの会議の様子をですね、報じてくれてましたけども、大転換したことの方が、そっちの方が重要な訳であってね。だから、僕は大阪都構想を掲げてるのは、そういう地域とのコミュニケーションというものは、僕がやっぱりこの立場で今できないから、これ、選挙で選ばれた区長がですね、5人か6人が大阪市内に必要だったのは、まさにこういう問題で、本当は選挙で選ばれた僕のような立場のものが、住民の皆さんの中に入って、こういう協議をしなければいけないんですけども、大阪市長という立場では仕事が手一杯になってしまっただけで入れないから、今の区役所、西成区役所とか、鈴木顧問に入ってもらってですね、関係団体、地域の皆さんと協議を進めていくと。そして、協議を進めながらいろんな声を聞いて、一定の方向性を浮かび上がらせていくとか、作っていくと。これ、この問題に関してはトップダウンでこの方針と決めて、これは大変なその調整が必要になってくるんで、これはボトムアップできちっとやっていこうと、大きな選択肢、その声を聞きながら選択肢を行政で作っていきますけどもね、そういう方針に切り替えましたよというところを前回、区政会議で散々これ言ってきたのにですね、こんな、毎日新聞がまた勝手に反維新、反橋下の立場からですね、現場を混乱させてやろうと思ったのか知りませんが、「方針固めた」なんていう、なんの根拠もない報道をしたことによってですね、これ、現場では、ほら、見たことかと、やっぱり騙されたと、もう既に行政の方、方針固めてこれ、今やってる会議なんていうのは、じゃ、これなんの意味があるんだって、そうになってしまうんですね。本当に、何が楽しいのかこんな報道やって。それだったら会議の様子とか、会議でどういう議論が行われたのかとか、どういう注文がついたのかとか、そんな話をきちんと報じてくれりゃあいいのに、こんな報道やって何が楽しいのかさっぱりわかりません。あの鈴木顧問がかなり怒って、現場で実際に話を進めてる鈴木顧問がですね、汗を流してくれてる鈴木顧問や現場の皆さんがかなり怒ってですね、毎日新聞に抗議したところ、「誤報でした」と、今日ですか、新聞に載りましたけど、こんな「誤報でした」なんてことを言うぐらいだったら、一言僕にあたりゃあいいのにね、もうちょっと、しっかりしてくれっていうんですよ、本当にね、報道も。以上です。